

# 平成30年度 授業改善プラン 全体計画

松仙小学校

## 学校の教育目標

- じょうぶな子ども
- よく考える子ども
- 思いやりのある子ども

## 学校経営方針（抜粋） ～授業改善との関連～

- 個に応じた学習指導
- 体験的・問題解決的な学習の重視
- 具体物及びICT等の教育機器の活用

### ○各教科

- ・児童の知的好奇心を満足させる楽しい授業・分かる授業・質の高い授業作りを目指し、指導法の工夫・改善に努め、児童の基礎学力の定着を図る。
- ・体力、健康に関する意識の向上を図る。オリ・パラ教育の実践に取り組む

### ○総合的な学習の時間

- ・横断的・総合的な学習を通して、唯一解のない問題を探究的・協働的に解決する資質能力を育成する。
- ・これからの社会を共に生きる上での自己の生き方を考えさせる。

### ○進路指導

- ・小中連携の活動や夏季休業中に行う「夏わく」の講座を通して、進学先の学校での活躍や将来への希望等期待感をもてるようにする。

### ○道徳

- ・教科書や実際の出来事、説話を通して、自他の存在を尊重し、相手を思いやる心情と態度を養い、道徳的実践力の育成を図る。
- ・生命を尊重する教育を推進する。

### ○特別活動

- ・集団活動への参加を通して、児童が自発的に活動する力を育てるとともに、集団の一員としての自覚を高め、協力してよりよい生活を送ろうとする態度を培う。

### ○生活指導

- ・校長講話のふり返りや生活目標との関連づけ等意図的継続的な指導を通して、よりよい生活をするために必要な規範意識の向上を図り、基本的な生活習慣の確立をめざす。
- ・交通安全教室・セーフティー教室等の安全指導だけでなく、必要に応じて関係機関と連携して指導し、児童が自らの身を守る力を育てる。

## <授業改善>

### ○学習指導の工夫・改善

- ・各教科の学習の決まり、基本事項（松仙スタンダード）を全児童に徹底し、学習規律が身につくようにする。
- ・一時間一時間の学習のめあて・学習の流れを提示し、振り返りを行う。
- ・算数では習熟度別授業を実施し、各コースに応じた指導の工夫を積極的に行い、個々の学習進度に合った授業を実施する。
- ・体育では学習カードを効果的に活用したり、場の設定を工夫したり、学習の流れを明示したりするなどして、学習の充実を図る。
- ・外国語活動では、研修や授業研究を活かした専科教員による授業を実施する。
- ・大田区学習効果測定の結果を分析し、本校の課題をとらえ、授業改善プランに反映させる。

### ○教育課程編成上の工夫

- ・児童の健康観察を確実に実施するために、朝会ではなく昼会を実施する。
- ・45分の授業時間を確保するために、集会や昼会を時間内に実施する。特に、放送による昼会を実施することで移動にかかる時間を短縮する。
- ・図書の日や読書学習司書・保護者による読み聞かせを通し、読書への関心の向上及び読書習慣の形成を図る。

### ○校内における研究や研修の工夫

- ・H28,29年度大田区教育委員会教育研究推進校として、校内研究では生活科・総合的な学習の時間に取り組む。全学級での授業実践を通して、研究主題「楽しい学校の創造」をめざし、その達成に向けて外部講師を招き研修を深め、カリキュラムの作成・改善及び授業力の向上を図る。
- ・生活・総合の楽しい授業を創造するための視点として、①意味を見いだす力（知識及び技能）②学びを創る力（思考力・判断力・表現力等）③すすんで関わる力（学びに向かう力、人間性等）の三つを中心に据え研究を進めていく。

### ○家庭や地域社会との連携の工夫

- ・学校公開や道徳授業地区公開講座等でのアンケート、地域教育連絡協議会や保護者へのアンケートによる外部評価の内容を真摯に受け止め、授業改善の視点としたり、次年度の教育課程に反映させたりする。
- ・サポート松仙との連携を深め、地域の教育力を生かした多様な教育（学習）活動を実践していく。

### ○生活科、理科、社会科の授業改善を図る。

- ・体験的な学習や繰り返し（継続的）学習の充実を図る。学年に応じて見通しをもった観察、実験を行い、問題解決の能力を育てる。
- ・ICTを積極的に取り入れ、児童の学習に対する興味や関心を高める。
- ・授業形態の工夫を行う。2人から4人程度の少人数グループでの話し合い活動等、アクティブラーニングを取り入れる。
- ・毎時間の授業のめあてを明確にし、児童に見通しをもたせる。導入を工夫する。
- ・支援の必要な児童に配慮した板書の工夫をする。

1 大田区学習効果測定の結果分析【国語】

(1) 達成率（経年比較）

◎・・・目標値を 5 ポイント以上上回った。

○・・・目標値と同程度（± 5 ポイント以内）。

△・・・目標値を 5 ポイント以上下回った。

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 4 学年	◎		
第 5 学年	◎	◎ (第 4 学年時)	
第 6 学年	◎	◎ (第 5 学年時)	◎ (第 4 学年時)

(2) 分析（学年別）

第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
○全観点において、目標値より上回っている。観点別に比較すると、読む能力が非常に高い。国語への関心・意欲・態度と話す・聞く能力が他の観点と比べて低い。	○全観点において、目標値より上回っている。観点別に比較すると、書く能力、読む能力が高い。話す・聞く能力が他の観点と比べて低い。	○全観点において、目標値より上回っている。観点別に比較すると、書く能力と、言語についての知識・理解・技能が高い。話す・聞く能力が他の観点と比べて低い。

2 大田区学習効果測定の結果分析【社会】

(1) 達成率（経年比較）

◎・・・目標値を 5 ポイント以上上回った。

○・・・目標値と同程度（± 5 ポイント以内）。

△・・・目標値を 5 ポイント以上下回った。

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 4 学年	◎		
第 5 学年	◎	◎ (第 4 学年時)	
第 6 学年	◎	◎ (第 5 学年時)	◎ (第 4 学年時)

(2) 分析（学年別）

第 4 学年	第 5 学年	第 6 学年
○全観点において、目標値より上回っている。観点別に比較しても偏りはない。	○全観点において、目標値より上回っている。観点別に比較しても偏りはない。	○全観点において、目標値より上回っている。観点別に比較しても偏りはない。

### 3 大田区学習効果測定の結果分析【算数】

#### (1) 達成率（経年比較）

◎・・・目標値を5ポイント以上上回った。

○・・・目標値と同程度（±5ポイント以内）。

△・・・目標値を5ポイント以上下回った。

	平成30年度結果	平成29年度結果	平成28年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	◎ (第4学年時)	
第6学年	◎	◎ (第5学年時)	◎ (第4学年時)

#### (2) 分析（学年別）

第4学年	第5学年	第6学年
○全観点において、目標値より大幅に上回っている。観点別に比較すると、数学的な考え方について目標値を大きく上回っている。	○全観点において、目標値より大幅に上回っている。観点別に比較すると、数学的な考え方について目標値を大きく上回っている。	○全観点において、目標値より大幅に上回っている。観点別に比較すると、数学的な考え方について目標値を大きく上回っている。

### 4 大田区学習効果測定の結果分析【理科】

#### (1) 達成率（経年比較）

◎・・・目標値を5ポイント以上上回った。

○・・・目標値と同程度（±5ポイント以内）。

△・・・目標値を5ポイント以上下回った。

	平成30年度結果	平成29年度結果	平成28年度結果
第4学年	◎		
第5学年	○	○ (第4学年時)	
第6学年	◎	○ (第5学年時)	△ (第4学年時)

#### (2) 分析（学年別）

第4学年	第5学年	第6学年
○全観点において、目標値より上回っている。観点別に比較すると、自然事象についての知識・理解が他の観点と比べると低い。	○全観点において、目標値より少しずつ上回っている。観点別に比較しても偏りはない。	○全観点において、目標値より上回っている。観点別に比較すると、観察・実験の技能が高い。

目標値：学習指導要領に沿って標準的に学習が進められた場合に、期待される正答率

